

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372300980
法人名	医療法人社団 井上会
事業所名	グループホームみんなの光
訪問調査日	平成 20 年 8 月 26 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 28 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 2008年8月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4372300980
法人名	医療法人 社団 井上会
事業所名	グループホームみんなの光
所在地 (電話番号)	熊本県下益城郡城南町今吉野806番地1 (電話) 0964-28-7800
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップいふ
所在地	熊本市水前寺6丁目41番5号 千代田レジデンス106
訪問調査日	平成20年8月26日

【情報提供票より】(平成20年8月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤 0人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	1階~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	(光熱費等)7,500 円
敷金	有() 円	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低 76歳	最高 90歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇城中央病院、井上医院、宇城中央病院歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

とんがり帽子のかわいいモニュメントを目印に進み、急坂を登った場所に「グループホームみんなの光」がある。リビングからは美しい水田の遠景があり、熊本市から城南町まで一望でき、約12,000坪の敷地内には総合病院・介護老人保健施設・訪問看護事業所・訪問介護事業所・介護支援センターがあり、医療・福祉双方から「グループホームみんなの光」をバックアップしている。また広大な敷地内には動物園や植物園・菜園などを有し、自家菜園で採れた新鮮な野菜や果物などを提供することで、利用者および家族の安全・安心につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて、廊下にはくつろげるソファの設置、プランターへの配慮、洗面所のヘアブラシと歯ブラシの設置位置の分離など改善がみられた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	現場の介護職員から意見を取り入れ、総事務長、管理者、介護職長の3人で自己評価が作成されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族の参加を促すために来訪しやすい日程の調整を行う努力がみられる。メンバーは、利用者・家族・行政の職員で構成され、ホームでの様子が報告されている。議題は報告が主となっているが、自己評価の内容や外部評価の結果を公表する等し、更なるサービスの質の向上につなぐ対応も期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1度の支払い時には家族が来訪し、家族の意見を汲み取る職員の努力がみられる。支払時のみならず気軽にホームに立ち寄れるよう茶話会等を開催し、職員・利用者・家族、ひいては家族間のコミュニケーションを図る場としての取り組みを検討するとよいと思われる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	立地条件もあり、地域との連携が取りにくい状況にあるものの、地域の夏祭りでは職員が事前に踊りを練習し積極的な参加がある。また、幼児との交流や小中学校のワークキャンプ、介護講習会などの実習も受け入れ、交流が図られている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、グループホームとしての家庭的な雰囲気作りに加え、地域密着型サービスの意義と意識を盛り込んだ内容となっている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内に掲げられ、職員のみならず来訪者にも目につき意識付けになっているが、日々の話し合いの中で理念に触れることで更なる定着が期待される。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小高い丘の上という立地条件のため隣接する民家がなく、日常的な地域との関わりは難しいようですが、職員は町の夏祭り等に積極的に参加し、地域の人との交流を図る努力が行なわれている。	<input type="checkbox"/>	職員だけでなく、利用者とともに地域のあいさつ運動やリサイクル活動等へ参加することで、地域とつながりながら暮らす仕組み作りが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現場の介護職員から意見を取り入れ、総事務長・管理者・介護職長の三人で自己評価が行なわれている。職員全員が評価の意義を理解し自己評価に取り組むことで、日々の職務の再点検ともなり、具体的な改善も可能になると思われる。	<input checked="" type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者・家族・行政の職員で構成されており、家族が参加しやすい日程を調整し、多くの参加があるよう呼びかける努力がみられる。会議で自己評価の内容を説明し、外部評価の結果を公表することで、地域に開かれた施設としてサービスの質の確保を図ることが期待される。	<input type="checkbox"/>	区長・民生員・老人会・小学校PTA・婦人会など幅広い地域の人々を参加メンバーとして加えることで、幅広い意見が得られ、新たな視点での運営につなげられることと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場の担当職員は、運営推進会議の参加メンバーであり、また頻繁にホームに足を運び様々な情報の提供がある。担当職員の来訪時に利用者との交流の機会を作るなどし、更なるコミュニケーションの構築も望まれる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1度の利用料の支払い時にはホームへの来訪があり、加えて月に1～3回の家族訪問がみられる。家族の訪問時に暮らしぶりや健康状態を報告している。また法人合同の「ふる里ニュース」が3ヶ月に1回発行され、法人全体の様子が伝えられているが、ホーム独自の会報誌があると更に良いと思われる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の面接時に、意見や要望の収集に努めている。何でも話していただけるように家族とのコミュニケーションを大切にしている。出された意見や要望を会議等で話し合い運営に反映される工夫が期待される。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は少なく、職員と利用者との馴染みの関係が築かれている。法人内での異動後は遊びに来るなどして、継続した関係作りが配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での年間計画が作成され、研修が実施されている。内部講習は職員のレベルに応じた研修内容で行われ、外部研修の復命会を開催し、情報の共有が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	総事務長は、他のグループホームへ足を運び交流を図っている。宅老所グループホーム連絡協議会に加入している他グループホームとのネットワークが構築されており、職員が会議や研修等への参加することで、意見や情報交換の場として活用されることが期待される。	○	職員が外部研修に参加することで他のホームとの情報交換が可能になります。ゆとりある人員配置で自由に職員が研修に参加し、自ホーム以外のケアの在り方や経験を聞くことが可能になると、更なるサービスの質の向上につながるのではないかと思います。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	以前の生活がスムーズに引き続きができるように、利用者や家族から生活環境を聞き取り、把握した情報は職員間で共有されている。体験入居システムの導入で、馴染みの関係を作る構想があり、期待される。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	伝統文化や習わしなど、受け継いでゆきたいとの思いがあり、入居者へ年長者としての敬意を持っていることが感じられた。	○	一人ひとりの生活暦や家庭環境等を把握する事で、活躍できる新たな分野の発見に繋がり、利用者との会話を大事にし、共に支えあえる関係がさらに深まる事と思われる。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から自発的な要望はなかなか出でこず、職員が選択肢を提供し、その中から本人の希望や意向にそった支援をしている。利用者の思いや希望、意向を把握するために日々の係わりの中から更に推し量る工夫が必要かと思われる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現在は担当職員の意見をもとに管理者・介護長で話し合い、介護計画が作成されている。サービス担当者会議は定期的に行われているが、ホーム職員のみで開催となっているので、時には、看護職・理学療法士・作業療法士など専門職種の意見や情報を聞き、利用者が自分らしく暮らせる介護計画の作成を検討工夫されると良いと思われる。	○	担当職員のみではなく、全職員との意見交換をもとに評価をしモニタリングを行いカンファレンスへ反映させ、本人や家族と話し合いを行い、利用者本位の介護計画の作成に取り組む事を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとに介護計画の見直しが行われおり、状態に変化がみられ時にはその都度介護計画の更新が行なわれている。個人記録に毎週介護目標を記載しケアに取り組んでいます。一歩進み介護計画の取り組み状況や効果などを評価し、介護計画の見直しの情報とする事が望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が併設病院への入院の際には必ず面会に行き、また他の病院への入退院時も面会や電話連絡を行い、精神的サポート支援につなげている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人病院をかかりつけ医にしており、月に1度の往診や夜間や緊急時にもスムーズな連携が図られ、家族の安心と信頼に繋がっている。院内には精神科、歯科もあり総合的に利用者の日常生活を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、母体法人の宇城中央病院で対応する方針で、入所時に利用者及び家族に説明しており、ホームでの看取りの実施は行なわれていないが、病院対応に至る期間の処遇方針は検討されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴は同性介助を基本としているが、やむを得ない場合には、タオルをかけた後すぐに下着を着用するなどの配慮がなされている。おむつ交換時やトイレ介助の際にはドアを閉めて行うようプライバシーの保護に努めている。チェック表など記録類は事務所のカウンター下に置き、取り扱いに工夫がみられる。	○	訪問時、トイレに行きたい利用者へ「ちょっと待って」と介助を待たせている場面が見受けられた。トイレの際の誘導は耳元で声かけを行い羞恥心に配慮し、利用者の意思を尊重した対応が必要かと思われる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事参加等は利用者の希望を尊重し、入居者一人ひとりの状態や想いに配慮しながら個別性のある支援を行なっているが、午後の長い時間帯にゆとりある人員で対応する事により入居者が心地よいと思える時間の過ごし方を提供できるのではないかと思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問当日の献立は、チラシ寿司、すまし汁、煮物ときゅうりの漬物でした。畑でとれた新鮮な野菜を食材とし、南瓜は皮まで食べられるように柔らかく炊いてあり、個々の咀嚼能力に応じてカットされた大きさとなっていた。食べ残しはみられずきれいに食されていた。	○	介護を行うだけではなく職員と利用者がテーブルを囲んで食事することで、会話も増え楽しい雰囲気ができると思われる。職員と利用者で簡単に作ることのできるホットプレートを活用した焼きそばやホットケーキ等の献立を考え、同じ食卓を囲み同じものを食べる工夫も必要かと思われた。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午前中の予定となっているが、状況に応じて夜間帯でも入浴が可能である。9月は、同敷地内に足湯も利用できるようになり多様な入浴を楽しめる支援が行なわれている。少し深めの浴槽には浴槽内いすを利用するなど福祉用具プランナーや理学療法士等の関係職と連携をし、福祉用具の有用な活用に期待される。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみ、部屋掃除、廊下掃除、下膳、役割が自然に決まっており、一人ひとりにあった役割が分担されていた。昔懐かしいお手玉や歌を唄う事で引きこもりやうつ状態を防ぐ支援がなされている。週に1度は併設施設の老人保健施設へ書道教室に参加するなど多様な楽しみごとへの工夫を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	約12,000坪の敷地内には動物園や植物園、併設施設の老人保健施設には大きな水槽があり、広い敷地内を散歩することで様々な刺激があり心身の活性に繋がっているようです。併設病院内の売店に田崎市場からの入荷が毎週あり、職員は希望の利用者とともにお菓子や日用品を購入している。	○	母体法人の催し物へ参加をする等ホーム外への外出支援はあるものの、敷地外への外出する機会はやや少ないように思われる。地域のスーパーへの買い物やドライブなど、気分転換やストレスの発散として、外出支援を活用することが望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠はなく、自由な暮らしを支援している。ホーム玄関に鈴をつけることで出入りを確認しており、敷地には安全管理モニターを設置し徘徊防止に役立っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、通報・避難・消火訓練が行われており、法人全体で職員の協力体制を図る仕組みがある。各部屋には火災報知機が設置され、安全への配慮が見られた。今後は、法人内だけの訓練に留まらず、地域住民への参加・協力を依頼し、災害対策に備え、ホームの存在を地域に知ってもらう機会とする検討も望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3度の食事に汁物をつけ、10時の体操後、3時のおやつ、入浴後には水分を提供している。献立は一週間分ずつ作成し、適宜法人本体の管理栄養士から意見を聞き、栄養が偏らないよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には、入居者と職員が共に作った季節の作品や、職員が作成した入居者一人ひとりの特徴をとらえた似顔絵が大きく飾られ、手作りの温かみを感じられた。多くの入居者が一日の大半をリビングで過ごしているので、椅子に座りながら足を伸ばしリラックスできる足のせ台があるとゆったりと寛げるのではないかと思われる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の出窓には、ぬいぐるみや家族の写真が飾られ、またベッドや布団は持ち込みとなり、本人の使い慣れた馴染みの物に囲まれ過ごしやすい空間となっている。また、床には畳を敷くことができ、利用者の希望で和室・洋室の対応もあり、その人らしさを尊重した心地よい空間となっている。	○	ベッド頭上に介護計画の目標が掲げられており、介護方針やケアの統一などには効果的と考えますが、病院的なイメージを連想させ家庭的な雰囲気を損なっているように思われました。ケアプランの目標をそのまま引用するのではなく、利用者にとって身近なものと捉えられる文言や表記に変えるとより良いと思われる。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみんなの光
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	下益城郡城南町今吉野806-1
記入者名 (管理者)	井上 洋子
記入日	平成 20 年 6 月 30 日

(様式1)

自己評価票(参考例)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	城南町出身で農業経験者の多いグループホームとして畑や動物など自然との融和を強調したサービスを展開している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送り時に運営の方針や目標等をスタッフと一緒に話あっている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を開催し、家族や役場から出席いただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接の民家の山崎ちはる様に下水道工事の際一時期駐車スペースの提供を求められ無料で貸すなどの関係性を築いている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人全体で幼稚園児の慰問を受けたり婦人会の見学や町の夏祭りの参加など交流をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	恵まれた自然環境を生かしてその人の過去の生き方と連続性のある生き方が出来るよう常に話し合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価が業務の節目となり業務の質の向上となるよう心がけている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	役場から食品の安全について情報提供を受け、さらに食糧自給体制の必要性を感じた。また、認知症に対する偏見や差別をなくすことの重要性を役場から聞いた。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場の担当部署は距離が近いこともあり時には文書を持参されることもある。当法人の担当者は役場に赴き相談をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人の成年後見制度利用の入所者などの状況について法人の支援相談員から概略を学んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は当然として、身体拘束廃止を実施している。現在言葉の暴力について学んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明と同意を基本とした契約体制を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のほか意見箱なども設置している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	運営推進会議にて報告連絡相談をしているが、面会時に個別に話し合うことの効果の方が大きい	日曜日に運営推進会議を開催するなど家族の参加率を高める工夫をしたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会を活用している	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや申し送りの中で職員各自が発言する機会を設け運営の実態を把握するとともに提案を受けよう心がけている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の具合が悪い時などは自主的に居残りをしたりして、職員と利用者以上の関係を構築中である。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率は高く利用者との馴染みの関係がある。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修に参加させるほか、法人内の介護研修にも参加させ、レベルの向上に努めている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役場、地域包括支援センター、介護支援センターなどとの情報交換をしている。また、認知症の講演会などへの参加もしている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人の福利厚生事業（職員旅行など）に参加しストレスを軽減している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自ら勉強し工夫するために、研修参加や勉強会の開催を推進している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学が入居の第一歩であり、認知症で意味不明の発言をされても、まずは傾聴することで本人のストレスを軽減し、本人の意思を引き出す努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と離れた状態で家族の話聞くことで家族の本音を引き出す努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と判断すれば併設の病院や老人保健施設を紹介したり、在宅のサービスを説明することもある。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の人見知り期間を職員の側が意識化することで対応をしている。	体験入居のシステムを考えてみたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	法人のドンドヤの行事に参加したり、一緒に畑仕事をすると高齢者の知識や知恵の深さに教わることが多々ある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	地域密着型以前の入居者の家族と、病気して一回ここを出たら戻ることが出来ない制度になったから病気にしないで元気で・・・と冗談を飛ばしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の職業や生活歴について詳細に聞くように努めている。職業を問うて農業と返事されたら、何の作物を作っていましたかと聞いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者を大切にし面会時間を緩やかに運営している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	部屋に閉じこもらずにリビングで過ごす時間を多くもつように努力はしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院退去の場合、併設病院であれば必ずお見舞いに行く。他の病院の場合も遠隔地以外はお見舞いに行くように努めている。もちろん、電話は欠かさない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを引き出すことは、困難を極めることであるが、努力はしている。緊急避難として、本人のためになることを推測して行うよう努め、反応を見ながら本人の真意を引き出すように努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	雑談の時間を大切にし、かしまらない会話の中から、情報を引き出し本人のために役立つよう検討している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別の記録の充実を図り、スタッフ全員で情報を共有するよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が発した何気ない言葉、ちょっとした癖などを関係者で話し合い介護計画に盛り込むように努めている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	臨機応変を心掛け、食事時間等も長くなりがちである。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の個別性を高める努力をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の病院、老人保健施設と行事を共同で行うなど事業所の多機能性を柔軟に生かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	法人の医師が警察医や学校医として協力体制を構築している。ボランティアの受け入れや消防との協力体制、幼稚園児との交流など地域資源との連携は深い		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者のMさんは地元のJ病院からの入居であるが、同病院のケアマネジャーがMさんの好きなプリンやヤクルトを持参して状態を見に来られる。職員は付き添って一緒に話す。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの情報交換を実施している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>環境変化によるダメージを軽減するために、GHで対応できることはなるべくGHで対応し住み替えのないようところがけている。住み替えが必要な場合は、類似環境への住み替えを念頭に協議している。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>法人として個人情報保護に努めている。言葉かけにおいては家庭的な雰囲気を守るため個人名を使用しているが部外者がいる場合等は個人名を伏せたコミュニケーションを図るよう努めている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>とにかく時間をかけることで利用者の希望を表出させるよう努めている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>非合理性のメリットに着目し時間をかけて入居者のペースを尊重している。幸い気の短い人はいない。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>併設施設に理美容サービスがあり利用し、ついでにお化粧することや通所利用者にその姿をみせることが楽しみになっている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		法人で足湯を作る計画がある。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		おじゃめをしたり、昔の歌を歌ったり古き良き日本の伝統文化を教えてもらっている。希望者は老健施設での書道のお稽古教室に参加できる。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>YさんFさんは売店にジュースを買いに行かれるので、家族に依頼して面会時に1000円程度持たせてもらうようにしている。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>約12000坪の敷地内の併設施設の行事に参加したり、畑仕事を手伝ったり、散歩をしたりしている。敷地外への外出はできるだけご家族とともに外出させたい</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>月に二回程家族の面会があり、外出の声かけをして車で出て行かれる入居者もいる。盆正月の一時帰宅や、墓参りのための外出など積極的に機会作りを心掛けている。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>「息子に電話してくれ」との本人の希望ありて、息子さんの仕事の邪魔にならない時間帯を選んで電話をさせている。息子さんや家族の声が聞かれると安心されている。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会は、入居者が希望しなかったり、危害が及ぶ恐れがある場合を除き、原則として歓迎している。面会票に名前をかけない人は安全上建物内に入れない。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>縛るなどの肉体的な身体拘束はもちろん、言葉による暴力や身体拘束が知らないうちに行われていないか職員相互に意識し合っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>地元消防団との交流を検討している</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	Tさんはすり足歩行で裸足で出てくるので転倒防止の観点から、「裸足で冷たかろう？」などと柔らかい口調で危険回避の配慮をしている。滑りにくい履物選びと滑らない工夫を協議している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	併設病院の指導を受け入居者の変化には敏感に対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	併設病院と協力し服薬支援には万全を尽くしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	まず、運動と考え、散歩や軽作業、外出などを勧めている。また、食物繊維の豊富な野菜を多用し便秘と便秘による身体的・心理的悪影響を予防している。服薬も行うが漫然とならないように併設病院と打ち合わせている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	併設歯科受診など口腔ケアには配慮をしている。きれいな口は食べる喜びに通じるという考え方をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おつゆ、お茶、牛乳、ヤクルトなどの水分補給のほか随時のお茶タイムもある。栄養については、管理栄養士等の指導を受けることもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防注射の接種、疥癬予防など法人の感染対策委員会から情報を得て実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等は逐次洗浄し清潔に努めている。また、食材は敷地内で栽培したコメや野菜など新鮮さは群を抜いている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	バリアフリーの玄関、人形などで飾った玄関は親しみやすい。鳴り物を下げ人の出入りをやさしく知らせてくれる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風光明媚なリビングは眼下に季節毎に色彩を変える田園地帯を望み飽きさせない。春には桜のトンネルが出現し毎日が花見の様な日々もある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの形がホールや廊下と一体化するような作りとなっていることで、利用者相互の距離感を上手にとることが出来るように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家具などの持ち込みをある程度認めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	大型の開口部と業務用エアコンが設置され、なお かつ高台にあることできれいな空気を堪能でき る。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりを多すぎず少なすぎず設置している。建設 当初理学療法士と相談している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	掃き掃除が好きな人には箒を貸与し、洗濯好きに は一緒に洗濯をしてもらう。食事時間になるとお 皿を並べ始める人もいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	花壇や鉢植えの花で季節を感じてもらえるよう に、花いっぱい運動を法人全体で展開している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

排泄面で入居時にオムツ着用されていた入居者の方が徐々にトイレ誘導など行ってオムツが外れた事などが家族に喜ばれている。ホーム内がバリアフリーでの建物である。